

的確な状況判断を行い 積極的な融資を進め地域を支えていく

停滞感が強まる経済情勢の中、日本銀行による異次元の量的緩和、アベノミクス、少子高齢化や最近ではTPP、地方創生など著しい環境変化にさらされ金融界も再編の動きが活発化。地域の金融機関・信用金庫もさらなる中小企業の育成、地域社会の発展に寄与することを求められている。愛知・岐阜・三重・静岡の東海四県の信用金庫で組織する東海地区信用金庫協会会長、御室健一郎氏に話を伺った。（聞き手／中部財界フォーラム社代表取締役塚本隆）

—— 厳しい現況下での信金の役割とは。

御室 現在、根本的な問題としては少子高齢化と東京一極集中。少し広げると東京圏・名古屋・大阪・広島・福岡・仙台など拠点都市に人々がすべて吸収されていく。労働市場がそこにあるからだろうが、それによって地方が徐々に力を失っていく。
地域で生きる信用金庫業界は地

域にどう貢献するかが、が根本です。責任を持って地域を支えるのが信金の役割だが、その自覚を持つことが大事。今までの発想では顧客との関係がメイン。無論それはベースだが、それだけでは不足。もっと地域全体を支える発想が必要。地方公共団体には企画能力があっても実務能力に欠ける面がある。我々が支え、地域を維持していく役割を担わないといけない。

地方衰退のままでは国全体がいびつな形になる。都市へ集中させてしまうと地域の産業ばかりか伝統、文化が消えてしまう。それらを支えるのが信金です。

信金の地域振興は個別客に対する提案能力が五〇％、地域全体に責任を持つことが五〇％必要。郵貯問題も地方銀行や信用金庫にもかわってくる。都会は任せておけばいいが、地方は郵貯、JA（農協）も加わって“見守り隊”的な役割が重要。それらとの連携は必要になってくるだろうが、まだ手が付けられていない。とにかく地域を支える基盤づくりが必要です。

—— 信用金庫の経営環境は？
御室 東海四県はアベノミクス

などの影響で企業の収益改善もあって回復している。信金の主な顧客の中小企業動向も収益改善がみられるものの大企業には及ばない状況です。東海四県の信金では預金・貸出金とも全国を大きく上回る伸びの一方、金融環境、他業態の競争激化で貸出金利は低下を続けており、残念ながら信金本業の利益は減少傾向にあります。

—— 米国訪問されたと聞きました。

御室 先日、二週間ほど北米に行きましたが、三つ目的がありました。一つは現地の預金量一二〇兆円ほどの地方銀行ですが、知恵で稼いでいる。企業と企業を結び、その手数料を得る。いろんな二一